

ブルジョアジーのふりまく幻想

マルクス主義者はそんなことは言わない。彼マルクス主義者は、繁栄について一般的に論ずるとか（ヘヒトについてかたっているチェルノフ氏）、あるいは、消費のきりつめについては口をつぐんで「収益性」を算出するとかして、小農耕者の状態を美化するような、いつもの方法を暴露するだけである。ブルジョアジーは、このように美化しようと努力し、労働者も「経営主」になれるし、小「経営主」も高い収益をえることができるという幻想を、維持しようと努力しないではいられないのである。社会主義者の大業は、このようないつわりを暴露し、小農にとってもプロレタリアートの革命運動に参加する以外には救いがないことを、小農に説明することである。

第五卷 農業問題と「マルクス批判家」P186 1901年6～9月に執筆

コメント

私たちは、小経営主一般に対する態度、対応のしかたとしてこのような見方が必要である。そして、現代では、誰でもこのようになれる点が特に強調され、そのように思いこまされているので、一層重要な指摘である。

マスコミについて

『ノーヴォエ・ヴレーミャ』式の文書……同紙は、なんら一定の政治的綱領もなんらの信念ももたず、そのときの調子と気分に合わせて、どんなことを指令されても、権力をもつもののまえにはいつくばり、世論と称されるものに媚態をしめす才能しかもちあわせていない。

第五卷 国内評論 P295 1901年10月に執筆

コメント

現代のマスコミもまったくかわらない。